

相生山病院外来担当医師表

外来診療責任者 副院長 松浦 昭

診療時間	診察室	月	火	水	木	金	土
9:00 ~ 12:00	1診	渥 美	呼吸器科 加 藤	呼吸器科 加 藤	呼吸器科 山 口	松 清	奥 田
	2診	【予約診療】 佐 藤(貴)	佐 藤(徹)	【予約診療】 佐 藤(貴)	松 浦	鈴 木	殿 村
	リハビリ科	倉 上	倉 上	佐久間	佐久間	佐久間	倉 上
	内視鏡		松 浦			松 浦	
17:00 ~ 19:00	夜外来	鈴 木	松 浦	殿 村	【予約診療】 佐 藤(貴)	佐久間	

急患の方はいつでも診察いたします。

創立39周年記念式典

医療法人清水会が創立39周年を迎えました。これからも地域の皆様に愛される病院を目指し努力してまいります。



「永年勤続表彰」

☆勤続10年

本庄 正博さん(リハビリ)
福田 つぐみさん(看護師)
加藤 優佳さん(栄養士)



地域包括ケア病床のご案内

平成26年12月より、3階病棟の一部を「地域包括ケア病床」として運用を始めました。この病床は、主に在宅への退院を目指す患者様のために、リハビリや看護サービスを手厚くしてできるだけ早くご自分のご家庭に帰れるように支援する病床です。急性期の治療が落ち着き、在宅へ帰るために十分なリハビリが必要な方や、もう少し経過観察が必要な方などが対象になります。在宅復帰支援計画を作成して、医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、栄養士、医療相談員など多くの職員が協力して、在宅復帰の手助けを行います。ご質問やご相談は、病棟医師長や医療相談員にお問い合わせください。



当病院においてお気付きの点がございましたら、お気軽に「ご意見箱」へお願いいたします。



『健康になってちょ!』講演会のお知らせ

相生山病院では、皆様方のご健康を願い「健康になってちょ!」と題して健康教育講座を設けております。どうぞお気軽にご参加ください。

場 所 相生山病院5階会議室

開催日時 2ヶ月に1回(奇数月) 第3土曜日 午後3時~60分間

※今回は都合により2月、3月の第2土曜日に開催いたします。

平成27年 2月14日 ●高齢者医療について
院長 佐藤 貴久

平成27年 3月14日 ●認知症について
リハビリテーション科 作業療法士

講座内容が変更になる場合があります。ご了承下さい。



相生山病院の理念
「まごころ」

相生山病院の基本方針

1. 医療の主人公は患者さまであることの自覚を深くし、当院が定めた患者さまの権利の擁護者として、患者さまと共に良い医療を目指します。
2. 地域の皆様のために医療・保健・福祉サービスにおいて精一杯貢献します。
3. 24時間対応の救急医療を実施します。
4. 病・診連携、病・病連携(他の病院や診療所との連携)を密に行い、患者さまに常にご安心とご満足頂けるあらゆるご要望にお応えします。



相生山病院 ニュース

編集/医療法人 清水会 相生山病院広報委員会
名古屋市緑区藤塚三丁目2704番地 TE L(052)878-3711
http://www.aioiyama.or.jp/

2015
新春号
第40号

ご自由にお取りください。



新年のご挨拶

医療法人清水会 相生山病院院長 佐藤 貴久



新年明けましておめでとうございます。早いもので、私が院長を拝命して、もう1年が経ってしまいました。病院をより良くしようと奔走しましたが、空回りすることが多く、過ぎてみれば、皆様に助けられ、今日の自分があるのだと実感しています。今年もまたつつがなく新年を迎えることができましたのも、ひとえに皆様のご支援・ご厚情のおかげです。心より御礼申し上げます。

さて、世の中はアベノミクス効果に賛否両論のようですが、いずれにしても我々一般庶民が景気の回復を実感するには、もう少し時間がかかりそうですね。昨年末には、突然のアベノミクス解散があり、消費税増税が先送りになりました。消費税増税の大義は社会保障費対策でしたが、今後も増大する社会保障問題は、解決には程遠い段階です。今後予想される施策として、医療に関しては、医療及び介護に関わる高齢者の負担金の増額、医療機関の効率化と負担増、日本国全体の医療や介護費の削減(在宅化の推進、延命処置の削減、高齢者医療の見直し)、年金に関しては、受給年齢の引き上げ、所得に応じた対象者の削減、優遇された年金額の見直し、あたりが落としどころのように思われます。

われら相生山病院は、安心できる老後の生活を心より願っておりますが、医療や年金問題が解決しないままでは、とても安心できる老後とは言えないでしょう。ご高齢者の生活が更に苦しくなるような政策は是非とも避けていただきたいものです。少子高齢化が進む中、団塊の世代の方々が75歳となる2025年、更には高齢化率が最大となる2042年までには、安心した老後が保障される指針が示されている必要があり、今後の希望のある政策を期待します。

われら相生山病院は、地域に根ざした医療を心掛けており、地域の皆様のお役に立てよう一層努力していきたいと考えています。平成26年12月からは、3階病棟の一部が、主に自宅退院される方を対象とした地域包括ケア病棟となり、従来制限を受けていたリハビリテーションの単位数が増え、ご好評をいただいております。更に、今後在宅診療にも力を入れ、対応していきたいと考えております。また、医療法人清水会には相生山病院の他に、四つの老人保健施設と二つの有料老人ホームがあります。更に兄弟関係に当たる社会福祉法人勸業会には三つの特別養護老人ホーム、ケアハウス、小規模多機能施設などがあり、地域の皆様に様々な形で、ご希望に沿った医療を提供していきたいと考えております。また、有料老人ホームの二施設には、必要時は相生山病院の医師が訪問診療も行っています。平成25年4月にオープンした有料老人ホーム「グリーンヒルズケア相生」には、もともと相生山病院で勤務していた看護師が多いこともあり、医療が必要で、一般的な介護施設では受け入れが困難な患者様も積極的に受け入れております。中庭には滝や鯉が鑑賞でき、ホテルのように優雅な雰囲気、職員も優しく、露店風呂や温泉があるので嬉しいと入居された方々よりご好評を頂いております。まだ少しお部屋に空きがあるので、ご興味がおありであれば、是非とも一度ご見学下さい。

相生山病院は理念である「まごころ」を忘れず、皆様にご安心と温かみを感じていただける病院になれるように今後とも精進していきたく思っております。今年が皆様にとって良いお年になりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

『第2回 走る院長』

～感動の富士山マラソン～

相生山病院 院長 佐藤 貴久

皆さん、こんにちは。走る院長シリーズ第2弾とのことで、今回は実際のレースレポートをお送りしたいと思います。

2014年11月30日(日)、富士山マラソンに参加しました。この大会は全国47都道府県すべてから、また海外40カ国の国々より約16000人が参加するマンモス大会です。当日は絶好の天気で、会場に到着すると目の前に富士山が広がり、威風堂々と佇むその姿の雄大さに圧倒され、世界遺産である富士山を、こんな間近で見ることができただけでも参加した甲斐があったと感動致しました。

富士山マラソンはフルマラソン(42.195km)のレースです。今大会の目標は、マラソンランナーの憧れであるサブスリー(3時間切り)としました。サブスリーは1kmを4分15秒で走るペースです。号砲が鳴り、走り始めは1kmを4分のペースで入り、最初の5kmは19分59秒でした。アップダウンを考え、このペースなら順調ですが、練習不足の僕には既に限界のペースでした(笑)。

しばらく走ると、20歳位の女性ランナーに追いつきました。一目で一流選手と分かる男性ランナーが引いており、女性ランナーの記録狙いなのでしょう。1km4分ペースだと、そのままゴールできれば2時間48分台で、一般女性ランナーではトップレベルです。実際沿道の人より『女性1位だよ～頑張れ～!』と声援がありました。しばらく一緒に集団で走りましたが、20km地点あたりで、20歳女性ランナーの息遣いが荒くなり、落ちていきました。しかし、対岸の火事では済まず、私も22km地点で足がピクピク痙攣し始めました。直ぐに痙攣止めを飲みましたが、ピクピクした状態は続き、完全に攣ったら、もうレースは終了です。

キロ4分20秒までペースを落として攣らないように騙し騙し走ります。前半の貯金を考えてもサブスリーには限界のペースです。しかし、願いも虚しく、25km地点で完全に攣りました(泣)。立ち止まってストレッチをし、また走り始めるとピクピク、、、(涙)。その後もストレッチを繰り返し、4回目に立ち止まった際、両ふくらはぎ、両側ハムストリングス、両側大腿が一気に攣りました。こんな攣り方は、脱水かナトリウム不足などの電解質異常です。あっちを伸ばすとこっちが攣り、という状態を繰り返し、道路脇で痛みのあまり悶えていました。

ここで心の悪魔が囁きます。(まだ走るのか?もうまともに走れないだろう?練習してないのだから走れなくて当然だろ?サブスリーも無理だぜ!何のために走るんだ?ここで無理すれば、足にダメージが残って次のレースにも響くぜ!やめちゃえよ～)棄権の二文字が頭をよぎります。そんな中、沿道からは声を囂らしての必死の声援があります。見ず知らずの方の声援に勇気をもらい、またゆっくりと走り始めました。痙攣したまま走っているので、完全にジョギングペースで、歩いている人以外のランナーには抜かれ放題です。

痙攣は水分補給で回復しないので、塩不足と思われました。トライアスロンでは常識である給水所の塩がマラソン大会にはありません。これは完全な誤算でした。25km地点と30km地点の給水所では、仕方なく水分だけをとりました。35km地点の給水所で漸く含塩タブレットがあり、何粒か食べて、足の痙攣が収まりました。

ここからが最後の戦いです。ペースを上げて走り始めると、息を切らせて必死に付いてくるランナーがいます。二人で周囲のランナーをごぼう抜きし、ゴール前まで抜きつ抜かれつの攻防を繰り返しました。この全力でのギリギリの戦いがマラソンの一番の醍醐味だと思います。(走れる!走るって楽しい!)自然と笑みがこぼれます。しかし、ゴール直前でまたもや私の足が攣り、結局ゴール前の競り合いにも負けてしまいました(笑)。

結果は、3時間7分22秒で、サブスリーには遠く及ばず、目標は叶いませんでした。しかし、何故か気分は晴れ晴れとした達成感がありました。子供達が完走メダルをかけてくれ、空を見上げると、真っ青な空と、雄大に聳える富士山が僕達完走者を迎えてくれました。周りにも完走メダルをつけた笑顔の勇者が沢山いました。笑顔で泣いている人もいます。目標としていた初サブスリーを達成して感極まったのでしょうか。先ほどの20歳女性ランナーも泣いていました。この方の場合優勝できなかった悔し涙でしょう。今大会でもきっと多くのドラマがあったと思われます。

マラソンは参加者全員が勇者で、完走者全員が勝利者です。前回の記事で、『マラソンは、多くの困難を乗り越え、どのようにゴールを目指すかは本人次第で、まるで人生の縮図のようだ』と記載しました。僕が今回、目標が達成できなくても、充実感に溢れていたのは、困難に屈する事なく、最後まで諦めずに走り抜いたことで、次に繋がる希望が見えたからだと思います。そして、走り始めた頃の、根源的な走ることの楽しさを思い出したからだと思います。人生でも同じように頑張りたいですね。温かみのある良い大会でした。目標は達成できませんでしたが、久しぶりに感動したレースでした。ありがとう富士山マラソン!また来年も来るよ!そして、次は絶対リベンジだ!!(笑)

